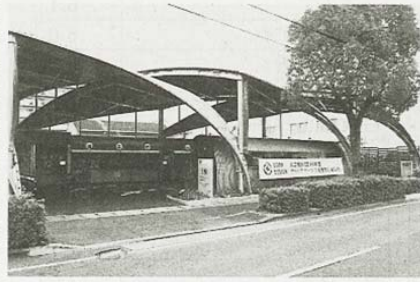


# 「えこ便」、環境性・デザイン評価

## 平林金属、グッドライフ賞で表彰

【岡山】鉄・非鉄・家電などリサイクルの平林金属（本社＝岡山



第1号店の「西古松局」

市、平林実社長）は、有人施設型の資源回収事業「えこ便」が、環境省の「第4回グッドライフアワード」の環境と循環」部門で実行委員会特別賞を受賞した。同事業は日本デザイン振興会の「2016年度グッドデザイン賞」にも選ばれており、市民に循環型社会への貢献と正しいリサイクルへの参加を促す取り組みは高い評価を得て

いる。グッドライフアワードは持続可能な社会の実現に向け、一人ひとりがライフスタイルを見つめ直すきっかけとなる環境と社会に

い取り組みを応援するもの。「えこ便」の市民とともにリサイクル社会の構築を目指す活動が評価され、受賞につながった。

同事業は2015年7月、第1号店となる「西古松局」（岡山市北区西古松）の開設を皮切りにスタート。近年、空き地や軽トラックを利用し、必要な許可や施設のないまま資源回収を行う「違法回収」

が全国で増えており、不適切な処理や不法投棄が環境汚染の原因医となっている。同社は行政による対策だけでなく、民間企業の立場で協力したいとの思いから事業を立ち上げ

グッドデザイン賞に続き、グッドライフアワードで「えこ便」の取り組みを面白い事例の一つとして、評価していただき非常にありがたい。環境省から応援されるといふことの意義は大きく、身が引き締まる思いだ。当初は手探りの状態で不安も大きかったが、今ではこうしたサービスを地域の



平林社長

## 「ごみではなく資源」アピール

方が待っていた、という確信を持ち始めている。B to CあるいはC to Bといった消費者との取引にチャレンジしたことで、新たな気づきもあり、努力すべきことも見えてきた。われわれはさまざまな努力を重ね金属リサイクルのPRをしてきたが、家庭から出る金属や小型家電などは消費者にとつて未だに「ごみ」に過ぎない。これは大きな発見だった。われわれと消費者の認識に大きなギャップがあること、そしてPR不足を痛切に感じた。資源回収ボックス

だけを置いた青空回収ではごみ箱にごみを捨てる感覚と変わりが無い。ごみではなく資源を扱っているということを対面でアピールする。「えこ便」がそれまでの資源回収施設と大きく異なるのはこの部分だ。

現在、アルミ缶や新聞紙などはリサイクル可能な資源という認識が消費者にも浸透しているが、昔は違った。PRのやり方を工夫し、さらなる努力をすることで小型家電や金属スクラップも資源としての認識が高まっていくのではないかと

た。今年4月には2号店「安倍局」（鳥取県米子市安倍）を開設、今年度中にさらに2店舗を開く計画だ。

各店舗では使用済み小型家電や金属など家庭で不要となった「片づけ物」を手軽に持ち込むことができる。無料の会員登録を行うことで、リサイクルされた資源の重量に応じたポイントが貯まり、社会貢献グッズなどと交換できる仕組みも整え、

会員数は1万4000人を超える。情報発信拠点としての機能も持ち、利用者には環境破壊などを引き起こす「違法回収」の実態を広く市民に知らせ、正しいリサイクルへの参加を

呼び掛ける。

事業が始まり1年以上が経過、市街地にマッチしたデザイン性に優れた店舗は地域で広く認知されている。同時に一般消費者には近づきたい金属リサイクル業のイメージを変え、地域に不可欠な社会インフラとなりつつある。今後の課題は事業を長く維持・継続できる基盤の確保。新拠点の開設による「えこ便」トラックの稼働率向上などを進める方針だ。近くLINE社の提供するSNS「LINE」の連携アプリ「LINE@」を使った情報発信サービスも開始予定という。

【並木町局】  
8日に開設  
3号店目

人施設型の資源回収事業「えこ便」の新店舗「並木町局」（岡山市南区並木町）を8日にオープンする。「西古松局」（岡山市）、「安倍局」（鳥取県米子市）に続く3号店。子供向けの「夏休みリサイクル教室」などイベント開催のためのスペースを確保した最大規模の店舗となる。先月中旬から先行して会員登録のみ行っており、すでに登録人数は400人を超えているという。

営業時間は平日が午前9時から午後7時まで、土・日・祝日は午前9時から午後5時まで。定休日は水曜日。【えこ便並木町局】住所＝岡山県岡山市南区並木町2-27-33、☎086-263-10802